

カトリック仙台司教区郡山教会司祭館プロポーザル 審査講評

審査委員長 SOYsource 建築設計事務所 共同主宰
宮城学院女子大学 教授
安田直民

二次審査に残った5社について、講評では各社を発表順に以下のように表記する

- A社 株式会社菊池佳晴建築設計事務所
- B社 株式会社プラスニューオフィス
- C社 有限会社ナスカ
- D社 ヒットデザイン・ハフニウム設計共同体
- E社 PERSIMMON HILLS architects

二次審査は、10月7日13:00より郡山市労働福祉会館会議室において公開でおこなわれ、一次審査を通過した5社についてヒアリングを実施した。その後別室にて審査員による審査をおこない、最優秀案、次点案を選出した。ヒアリングおよび審査会における各審査員の意見をもとに、各社の案についての講評、および最優秀案、次点案についての選評を以下に記す。

A社の案は環境負荷低減とパッシブデザインに極めてすぐれた提案となっており、特に冷暖房負荷の低減について高い評価を得た。提案書に示された外観イメージは、地域や、既存聖堂ともなじみながら、新しい施設としての存在感もありバランスが高く評価された。配置計画では駐車場台数と、霊柩車への対応に質疑があり、平面計画、断面計画ではトイレの位置、天井の高さ、南側の閉鎖性が指摘されたが、いずれも今後の打ち合わせのなかで解決できるという回答があった。コストに関しては豊富なパッシブデザインの実績から十分に可能であるという回答について審査員を納得させるものであった。近年のエネルギー価格の上昇による冷暖房費高騰などを勘案して、A社のパッシブデザインは非常に評価されるとともに、発表時間を含めた的確なプレゼンテーションにおいても、発注者視点で高い評価があった。

B社の案は聖堂と司祭館・信徒館の間の広場とそれを囲む回廊が特徴的な案であった。また、郡山における多くの実績も評価された。プロジェクトの進め方について、具体的なワークショップのイメージも質疑の中で共有された。一方で、案の特徴である回廊について霊柩車の対応、駐車場台数、建物メンテナンス等の問題から多くの質疑が上がった。中庭、回廊についてのこだわりが、冠婚葬祭などの教会の使われ方にマッチしているのか、教会側の意見に寄り添ってくれるのか不安視する意見もあった。

C社の案については、バランスの良い1階平面、安全性の高い駐車場計画が極めて高く評価された。また、福島県における実績、教会の実績、担当者の福島県における活動などが高く評価された。実績の説明では設計事務所として建物の維持管理に永続的に関わっている姿勢などについても信徒審査員に安心感を大きく与えるものであった。トイレの位置、渡り廊下など、与件に対する読み込みも正確で、計画的な提案内容についても評価が高かった。司祭館の平面計画については、西側に大きく開く計画とテラス配置には質疑があがった。また、外壁の材料や外観、縦ログ工法の採用など、他社に比べて、提案書においてその案が十分に説明されているかという点について疑問が上がった。

D社の案について建物の配置計画、模型を設置する信徒とのコミュニケーション手法、ローコストな集会室の構造計画などが評価された。一方で、協働経験のない協力事務所との提案や、実績を含めた統括責任者の経験について疑問が上がった。提案ではパッシブデザインのアイデア、断熱性能にたいする質疑や、コスト根拠についての質疑回答に不安がのこった。また、プレゼンテーションにおける担当者の役割が不明確で設計共同体としての取組体制に疑問をもつ審査員が多かった。

E社の案については、提案書の内容、与件の掘り下げ、実績ともに高い評価であった。トイレの位置についての質疑についても十分に対応できるという回答に納得の行くものがあった。また、概算コストの根拠についても、ある程度実績ベースで積み上げており、信頼度が高かった。一方で、設計料についての質疑に対して、コストアップした場合に分離発注を提案するといった回答は、審査員に疑問を抱かせるものであった。設計者として多くの労力をかけるという姿勢に共感があがった一方、教会信徒との協働について不安があるという意見もあった。

選評

公開審査後、別室での審査では、意見を交換したあとで審査項目について点数を集計した。結果としてA社、C社が他社を大きく引き離して上位となり、この2社について再度審査員が意見を述べた。ここで、A社のパッシブデザインの提案と実績は、教会のサステナビリティという視点から高く評価するといった意見や、地球環境への配慮が注目される中、次世代へ引き付くことを考えると、信徒に対して案のすぐれた点が明快に説明できるといった意見が上がった。意見が出尽くした後、再度審査項目について確認の上、設計者としてふさわしい事務所を集計し、全会一致でA社を最優秀案、C社を次点案とすることで審査が結審した。

副審査委員長 日本大学工学部助教
高橋岳志

二次審査のヒアリング対象者となった5社は、全て優れた提案だったが、最終審査ではA社とC社が他社より高く評価された。そのため、二社の提案内容について再度議論した。C社は実績と計画内容が評価され、A社は環境への配慮が評価された。評価軸が異なり、審査は難航したが、教会を引き継ぐ対象者が明確である本計画において、環境に配慮した設計は、教会、信徒にとって重要であると審査員内で確認され、A社が最優秀賞に選出された。

本プロポーザルには、東北だけでなく関東など、全国各地の設計事務所、37社から技術提案書が寄せられた。審査員として感謝申し上げたい。本計画が教会、信徒、地域住民、そして郡山市にとって素晴らしい建築となることを願っている。